



JR東海労第37回定期中央委員会開催される!!

CMCからの加入熱烈歓迎!! そして、JS労の仲間とJR東海労連を結成!

2月11日、JR東海労定期中央委員会とJR東海労連結成大会が開催されました。定期中央委員会の冒頭に、恒例の万歳三唱で、CMCからの加入を全体で歓迎しました。中央委員会では、本部の淵上委員長、そしてJR総連・山口委員長、JS労・柳楽委員長の挨拶を受け、質疑では、各地方の委員から、「臨大決定によるJR東海労連結成を歓迎する」発言と、「JR総連、JR東海労本部、JR東海労新幹線関西地本での議論の場を設定し、“ボタンの掛け違い”を直す」ことが要請され、JR総連・山口委員長にも「本部からの要請があれば、検討する」と、これを受け止めていただきました。

関西地本選出の中央委員からの発言（質疑）は、浦谷委員と山本委員が行ないました。

浦谷委員は、「JS労結成から今日までの経過とJR総連近畿地協問題について」、山本委員は、「今一番に問われていることは何か」について発言しました。（別紙・発言内容参照）

またもやJR総連の残念な対応!!

中央委員会の会場には、昨年12月14日の臨大での、JR総連・山口委員長、JR東海労・淵上委員長、JS労・柳楽委員長の3委員長が一緒に並び握手をし、労連結成を確認し合った写真も飾られ、中央委員会に引き続きJR東海労連結成大会を開催する準備も整えられていました。ところが、残念ながらJR総連・山口委員長は中央委員会終了後、JR東海労連結成大会には参加することなく、臨大でJR東海労連結成を確認して3委員長が握手をしている写真が飾られた会場から立ち去られてしまったのです。

また、2月14日にはJR総連から『「JS労」結成以降の経過に関するJR東海労、JR東海労新幹線関西地本、に対するJR総連第9回執行委員会見解』が出されました。その見解は、まるで、中央委員会での浦谷委員発言に直対応のように思える内容です。

そして、「2月11日に開催されたJR東海労第37回定期中央委員会では、複数の委員から、『これまでの問題はボタンの掛け違いといえる。だから関係者が話し合いをすれば解決する。したがってJR総連、JR東海労、JR東海労新幹線関西地本の三者が議論する場を持てば、お互いの誤解は解消する』という発言があった。この間の経過を反故にした、これほどの事実の歪曲と責任逃れの主張はない。JR東海労、JR東海労新幹線関西地本には、一刻も早い課題解決のための実践が求められているのであり、『三者の議論』ではない。したがってJR総連は議論の求めに応じることはない。」と（JR総連第9回執行委員会見解「9」）、またもやJR総連の残念な対応が明らかにされたのです。

我々(労働組合)の敵は誰だ! 闘う相手を間違っていないか!?

ところで、中央委員会での発言（質疑）の最後は関西の山本委員で、山本委員からは、

JS労の結成に関して、「やれ相談が無かった」、「やれ二重加盟がどうだ」とか、「近畿地協の問題がどうだ」等々、これは我々労働組合内部の問題だ。闘う相手を間違っていないか? 12月の臨時大会で、いろんな問題は、今後議論を積み重ねて克服して行こうと、「JR総連、JR東海労、JS労の3人の委員長が一緒に並び握手をして、前に進もうと誓ったはずだ。」、なぜ逆戻りするの? そんなことをしている間にも、会社は次々と攻撃を仕掛けてきている。我々の闘う相手は、敵は、会社だ。ここが労働組合の生命線だ! と、

東海労は、今後の職場からの闘いを一番に強化することが訴えられ、全体で確認しました。

第 37 回定期中央委員会 浦谷発言

委員番号 8 番、関西地本選出の浦谷です。よろしくお願ひします。

まず最初に、CMCからの加入を熱烈歓迎します。そして名古屋地本の仲間の皆さんの奮闘に敬意を表します。

本日は、労連結成と、CMCからの加入を祝して、仲間の皆さんと共に、固めの杯を交わしたいと思ひます。発言は少し長くなりますが、ご了承ください。

新幹線地本の土川委員が、先ほど、1月26日のJR総連第46回定中の議事録を読んで愕然とした。と発言されました。私もそうです。愕然としました。東労組の委員からは、「そんなに嫌だったらJR総連から出ていってくれ」とまで言われました。そして今度は、元JR総連執行副委員長の京力さんが「JR総連破壊の内通者」にされようとしています。高崎の堀口に通じているから出て行けという事なんですか。出て行けとは、京力さんの事か、はたまた、東海労に言ってることなのか、何で今頃、そんな話が出てくるのか、よく分かりません。

JS労結成に対して、JR総連執行委員会が2023年9月8日に「緊急声明」を作成していました。「組織内組織の云々・許さない緊急声明」です。この間、JR東海労に無理難題を押し付けてきたJR総連の本音が書かれているといってもいい声明文です。この文書を持っていたのは、JR総連とJR東海労三役のみという事ですが、それをJR連合に葛西明の名前で送ったのは一体、誰なのか。JR総連の中央委員会では「内通者」だとか、「通敵」だとか言われ、これを京力さんがやったことにしたいみたいですね。呆れてしまいます。

そもそも、JR総連と、JR東海労三役しか持っていないということですが、該当者であるJR総連とJR東海労三役への調査、確認はやっているんですかね。東海労は調査し問題なしと聞いてます。従って、「関西がやった。」「内通者がいる。」「京力だ。」みたいな主張は魔女狩りです。

高崎の堀口と京力さんがメールのやり取りをしているから、京力だろうって、とんでもありません。先ず調査し、事実確認した上で、問題にすべきです。本人は聞き取り調査でも何でも協力すると言ってます。やってください。京力さん、今日、傍聴で来てますから、直ぐにやってください。事実を確定しましょう。そして言われた事実が証明できなかったら、それなりの責任を取っていただきます。先日、本部を通じて、熊谷書記長に「証拠があるのか」、「事実確認はどうなってるのか」を問合せしたら、「事実はあるが、出せない。」「関西が知るとまた捏造だという。」と言われたそうです。ナンセンスです。

ちなみに、11月27日付けの貨物労組の「見解」。これも内通者がJR連合に送ったと言われていますが、JR総連定中で津崎議長は、「どこから送られたのか分かりませんが、貨物労組本部は（見解を）各地方本部委員長にしか送っていません。」と発言されています。貨物労組本部が各地本委員長にしか送っていないのなら、常識的に考えて、JR連合に送ったのは誰か、憶測の範囲ですが各地本執行委員長の誰かとなります。

私も土川委員が言われたように、お互い感情的にならず、ボタンの掛け違いを直すために、お互い努力することに賛成です。そのためには、先ず、ボタンの掛け違いなのか、事実はどうなのか、以下のような点について、はっきりさせる必要があるのではと思ひます。

先ず、その第一点目です。これは先ほど、土川委員が言われました。東海労が8月25日の中執で、JS労を認めたのか認めなかったのかです。これが先ず一点目です。

第二に、JR総連が9月13日に発行した「見解」は、「総連執行委員会で満場一致で確認された。」とのことですが、これも違います。淵上委員長は、「東海労は受け入れられない。」と主張したが、JR総連は東海労の意向を無視し、見解を発出したのです。本部の中執でもそのことは報告され明らかにされています。だから臨大で各代議員からJR総連に撤回を求める発言がされたのです。

第三に組織指導についてです。「9・13見解は、東海労に対するJR総連の組織指導である。従って、従うべきである。」との考えのようです。しかし、JR総連は加盟単組の指導機関なのでしょくか。ここは大事なところ。無自覚だとは思いますが、JR総連には単一組織と同様に上部と下部の組織があると思いをされているようです。

JR総連の規約には、JR総連の「組織」について規約第14条で「JR総連は、地方協議会と青年部（今は青年協？）の組織をおく。」とあります。これ以外に「組織」はありません。これがJR総連の規約です。各加盟単組はJR総連の下部組織ではありません。当然、「指導」するとか「指示」するとかは出来ません。だからJR総連が加盟単組に出す書面は、「連絡文書」なんです。JR総連は、連絡調整機関です。鉄道労連を結成してからずっとそうです。「指導したい」「言うことを聞かせたい」と切に願っておられることは察しますが、違うんです。これについても明確にしなければなりません。JR総連定中での各単組の委員の方々の発言を見ると、ほとんどの方がわかっちゃいないようです。

第四に近畿地協定期委員会に関する事です。つい最近、2月5日付で津崎議長から書面が届きました。「近畿地協定期委員会に関する関係者への聞き取り調査について」という文章です。この文章の問題については、また後で言いますが、この文書によると、「JR総連は12月13日の第7回執行委員会で、近畿地協定期員会でのビラ配布は組織破壊行為であると確認した。したがって、東海労関係者への聞き取り調査を行う」というものです。これ、何のための聞き取り調査なんでしょう？ 調査する前に「組織破壊行為だ」と決めつけて、その後に聞き取り調査をするなんて理解できません。順番が逆でしょう。どうなんでしょうか、やっぱり結論ありきとしか思えないんです。

第五にこの書面は、JR総連近畿地協(発)指令第1号なんです。「指令」ですよ、皆さん。私、びっくりしました。先ほども言いましたが、津崎さんはやっぱり無自覚なんでしょうかね。臨時大会でも言いましたけども、地協議長としてあまりにも無知すぎます。規約・規則のどこにありますか？ 山口委員長、教えてください。JR総連は加盟組織への指令権を持っているんですか？

私たち東海労は、特に関西地本は、これまで16件もの地労委や「本人訴訟」裁判を自前で闘っています。訴状の書面を自分たちで書くんです。JR総連や東労組の皆さんは、裁判や労働委員会の書面を自分で書いた経験もなく、知らないと思いますが、訴状の一番最後にこういうふう書くんです。「よって、あるいは、したがって民法〇〇条違反、労基法〇〇条違反である」。これが法的根拠なんです。どんなに憎くても、法律に反していなかったら罪に問えないんです。頭に来るだけはいけません。だから、組織破壊行為だ、規約・規則に基づかないというなら、何条に反するのか言わないと、感情的、あるいは情緒的だと言われても、しゃーないという事です。会社とJR連合から笑いものにされるだけです。

第六にJR総連の定中で一番問題にされた関西地本のHPについてです。「内部暴露」「組織暴露」だ、「JR連合のJR総連批判に利用されている」「組織破壊に与する行為だ」等々言われています。しかし、私たち労働組合は社会的存在であり、組合員の皆さんには当然ですが広く社会一般の人達にも、堂々と私たちの考え・主張、そして行動を明らかにすべきであると、私は考えます。要するに、組合員や世間に隠し事をするのは誤りだと思うのです。

以上のことを前提に考えた場合、「内部暴露」「組織暴露」とは、「隠したいこと」「明らかにされたら都合の悪いこと」を“暴露された”ということではないのでしょうか。要するに、「明らかにされたら都合の悪いことだから、明らかにするな」と、言ってるようにしか聞こえないんです。勿論、事実と違うことがあれば、具体的にそのことを指摘し、訂正を求めるのは当然のことですが。

また、「JR総連批判に利用される」「組織破壊攻撃に与する」ともいわれますが、上記と同様に、批判、攻撃されても私たちの側が不安や動揺しなかったら問題ないと思います。でたらめなJR総連批判、組織破壊攻撃に具体的に正面から反論、反撃すればいいんです。

今回の近畿地協の問題で言えば、「定期委員会において、組織破壊攻撃があった等との発言も確認もされていません」。私たちが、そのことをいくら訴えても聞く耳持たずで、嘘をつき、組織破壊行為をデッチ上げられそうになったので、事実はどうなのか、具体的にHPに明らかにし防ごうとしたということです。

まだまだ言いたいことは沢山ありますが、最後です。

新しい事態が一つ起きました。1月26日に津崎議長名の文書が東海労の本部と各地方本部に送られてきました。内容は、11月26日の近畿地協定期委員会報告を津崎議長が翌1月27日に作成し、JR総連に報告した文書です。この報告文書の中には、関西の私たちの大先輩、今日もこの場に傍聴に来られています。その大先輩が定期委員会の前日に津崎議長に電話して来て、「11月21日の東海地協定期委員会で『総連見解を撤回しろ』という発言があった。近畿でもあるかも知れないから注意するようにと、忠告を受けた。」と書かれています。先ほど委員会前に大先輩に確認したら、ご本人は事実だと認めておられました。大先輩と津崎議長がそういう関係にあることは知りませんでした。大先輩は私の仲人ですから、あえて言いますが、その時、大先輩には津崎議長に、「何かあったら、正確に事態を把握しJR総連に報告しろ」とアドバイスしてほしかったです。

1月26日のJR総連定中の時に、本橋書記長が「津崎議長が東海労に送られたのですか」と、確かめたところ、津崎議長はこの文書はJR総連に送った報告文書だが、今頃、東海労に送ったりしていないとのことでした。じゃー誰が送ってきたのでしょうか。持っていた人物は限られているんじゃないのでしょうか。

ところで私には、この報告文書がシナリオになって、今回の事態が進められているように思えてなりません。

何故かという、この津崎報告文書、事実が違いデタラメだからです。

渡邊委員の発言内容も違いますが、極めつけは2点です。先ず1点目、定期委員会終了後の余った時間で行われた「打ち合わせ」が、「緊急常任委員会を開催した」ことになっています（ちなみに、「この緊急常任委員会」が、12月13日の第1回地協常任委員会報告のLINEでは、「打ち合わせ」に、コッソリと訂正されています。）。そして2点目は、この「緊急常任委員会」で、津崎議長が「情報配布は無断で行われ、組織破壊攻撃と捉える。」と発言し、何と、山本事務局長が「渡邊発言は定期委員会を混乱させた『組織破壊攻撃』

と確認する。以上を各常任委員も確認すること。」と、まとめの発言をし、全常任委員が「了解した。」と、発言し確認されたとデッチ上げられているのです。

要するに、近畿地協定期委員会の翌日の11月27日には近畿地協定期委員会で組織破壊攻撃が行われたことがデッチ上げられ、渡邊委員＝東海労新幹線関西地本を組織破壊者に仕立てるための「報告文書」が作成され、JR総連に報告されていたのです。

繰り返しになりますが、大先輩には、津崎議長に、「嘘はつくなよ、正確に事態を把握し報告しろよ」と、アドバイスして欲しかったのです。そうすればこんな事態にならなかったのです。

以上のようなことから私も、土川委員から提案があった、JR総連、東海労本部、関西地本で議論する場を是非お願いします。山口委員長と淵上委員長、是非とも検討して下さい。

本当に膝を突き合わせ面々相対し議論しましょう。それぞれが、一方的に自分たちに都合が良いことだけを言っても解決しません。JR総連と本部が合意してもらえれば、JR総連には「指令」、「指示」権はありませんが、本部は地本に「指示」出来ます。是非とも実現して頂きたいと思います。本部の答弁はこれについてのみで結構ですので、よろしくお願いします。

第37回定期中央委員会 山本発言

委員番号10番、大運の山本です。

本当に申し訳ありません。発言は、各地本1名だと地本から聞いてましたし、本部の畑野副委員長からも「圭やん、そういうことやから」って言われたんですけど、この場に来て、淵上委員長の冒頭の挨拶、総連の山口委員長の挨拶、そして4人の各地本からの発言を聞かせてもらい、どうしても、言わせてもらいたいと我慢できなくなりました。

ですから、簡単に済ませますから発言させてください。斉藤議長、指名、本当にありがとうございます。

端的に結論から言います。皆さん、「闘う相手を見誤ってはいませんか？」ということです。「いったい誰を相手に、我々は日々闘っているのか？」ということをお忘れいませんか？ということです。

JS労の結成に関して、やれ相談がなかったとか、やれ二重加盟がどうだとか、近畿地協の問題がどうだとか？って、これ我々「組織内の問題」じゃーないですか？やれ地本のホームページに何々を載せたから、けしからんとか、これって闘う相手間違っていないかって言いたいんです。

私も、12月の臨時大会で総連に対して注文をつけました、言わせてもらいました。しかし、しかしですよ、いろんな問題は、今後議論を積み重ねて克服していこうということでJR総連、東海労、JS労の3人の委員長が一緒に並び、この会場にも貼ってありますが、握手して前に進もうと誓ったはずですよ。なぜ、逆戻りするんですか？

そんなことしてる間にも、会社は次々と攻撃を仕掛けてきているんです。JR本体では、わずか100名になった東海労ですが、それでも存在感を発揮して闘っているんです。12月の臨大でも言ったんですが、一方的な休日出勤反対の闘いは4年前に総連から

「止めろ」と言われてスト権は確立できませんでした。けど、裁判も活用して闘いました。裁判そのものは敗訴しましたが、しかし、職場では一方的な休日出勤を無くしたんです。無くなったんです。実質的には闘いに勝利したということです。それは、裁判だけではなくて、職場で休日出勤が指定された時に、組合員一人一人が、当直のカウンターで「おかしいではないか」「休日出勤に指定するな」と毎回、毎回声を上げて闘ったからですよ。かっこよく言えば、これが「職場闘争」じゃないですか。

今、大運では、空白勤務指定に関する闘いを新たに始めました。内容は省きますが、先月、新しく裁判を立ち上げました。原告は、組合員12名です。12名って、現場にいる組合員全員です。私は、今、分会長ですが、組合員に、仲間たちに感謝しています。こんな頼りない分会長だけど、一人も漏れずに原告として、そして本人訴訟として、弁護士に頼らない闘いの立ち上げに全員が立ってくれました。

我々の闘いは、手前味噌ではいけません。常に組織拡大を意識しての取り組みです。ユニオンの若手が「なるほど、そうか」と感心するような、興味を示すような取り組みを意識しています。あと5年、このままではJR本体では職場に組合員はいなくなります。会社は、その5年を待てずに54歳原則出向攻撃で東海労を潰しにかかっているんです。だから、私は必死です。田川に次ぐ、田川を一人にさせない、これが我々の合言葉です。そんな思いで活動しています。

とはいえ、そんな簡単にはいきません。ユニオンはダメ、でも東海労もイヤ、というのが大方のユニオン組合員の現実です。でも、やるっきゃないでしょう。

淵上委員長！ 時間はありません。一人でも獲れば勝利ですよ。

車両所では、この年度末で本体に残っている60才以下の組合員はいなくなります。実際、組合員は関連のサービックやSEKに出向に出されています。サービックでは、いろいろ議論されて昨年「JS労」を立ち上げました。じゃーSEKはどうするんや！ ということに当然なります。SEKには「更衣時間や年間休日の問題」など、いっぱい課題があります。どう取り組むのか？ 聞くところによると「よし！ SEKでも」という決意が成立したのかな？ するのかな？ ということです。みんな、それぞれの現場で、目の前の課題に向き合っているんです。

先ほど、関西の浦谷書記長が「言いたいことは、他にも山ほどあるけど」と言いましたが、そんなに欲張って全てということはありません。今、己が存在する「場所」はどこなのか？ そこに存在する労働者と連帯して、スクラムを組んで、要求を作り、練り上げ、会社に突きつけ、交渉し、我々の・労働者の利益を獲得するという、ごくごく当たり前の組合活動、労働運動を作るための議論を、大会や、委員会ではやるべきだと思うんです。そのための中央委員会でしょう。春闘も然りです。

皆さん！ 我々の闘う相手は、敵は、会社です。ここが労働組合としての生命線じゃないんですか？

私は、歳は60をとっくに過ぎていますが、役員としては、分会長としては新参者です。そんな私の率直な思いを言わせてもらいました。わがままを聞いていただき感謝します。

「ああ、東海労って本当にいいなあ」って、美味しい酒を飲みながら語り合いたい、そんな気持ちでいっぱいです。よろしく願います。ありがとうございました。